



茨城県知事賞[最優秀賞] たかはぎ認定こども園  
●株式会社 梓設計

第36回

# 文化賞 茨城建築賞

協賛／(一財)茨城県建築センター (一社)茨城県建築士会  
(一社)茨城県建設業協会 (一社)茨城県設備設計事務所協会  
後援／茨城県 (株)茨城新聞社 (株)日本工業経済新聞社  
(株)日本建設新聞社 (株)建設未来通信社

茨城県議会議長賞[優秀賞]  
日立市立日高小学校



●株式会社 三上建築事務所 住所／水戸市大町3丁目4番36号 電話／029-224-0606  
 ●協力事務所 構造／有限会社 金箱構造設計事務所 機械／NASファシリティーデザイン室 施工会社名／りんかい・日産・三秀・久下谷 建設関連共同企業体  
 ●建物所在地／茨城県日立市日高町2丁目12番1号 ●建物用途／小学校 ●構造／RC造一部S造 ●建築面積／2,519.20m<sup>2</sup> ●延床面積／6,176.74m<sup>2</sup>  
 撮影／堀内 広治



茨城県知事賞[最優秀賞]  
たかはぎ認定こども園

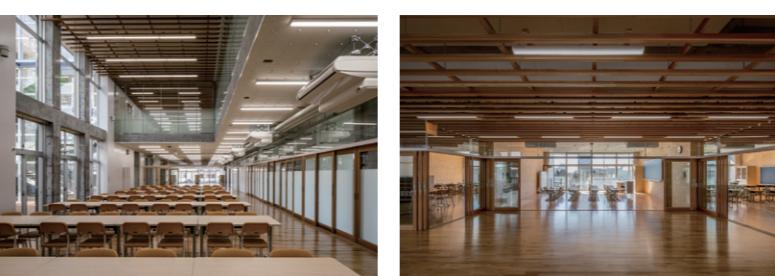


●株式会社 梓設計 住所／東京都大田区羽田旭町10-11 MFIP羽田3F 電話／03-5735-3210  
 ●建物所在地／茨城県高萩市本町4丁目5番地 ●建物用途／こども園  
 ●構造／木造一部鉄骨造 ●建築面積／1,663.29m<sup>2</sup> ●延床面積／1,291.04m<sup>2</sup>



アフターコロナ時代の拡がりと多様性ある園舎

このこども園には廊下がない。園児の主動線は半屋外の縁側である。深い軒の縁側で園舎を包み、保健室への縁側からの直接のアクセスを可能とし、登園・降園の渋滞緩和、感染症対策の離隔・消毒スペースを確保した。また、縁側は、雨天時の滞留スペースや、運動会の観客席、夏の日陰や雨天時の遊び場、多目的ホールとの屋内外の連携を可能にする等、多岐にわたる活用が可能である。大屋根は、L字型の中央の多目的ホールを頂点として、保育室へと気積がゆるやかに変化する。



作意の表出を留めた  
構造体が  
建築の骨格を形づくる

既存校舎は敷地南側に配置されている。既存校舎での学校運営を維持しながら新校舎を建設すること、北側隣地の住民への周到な配慮が課題だった。加えて、体育館とプールは継続して使用することが条件であった。

校舎は矩形にまとめ、既存運動場部分に南北を長手として配置した。矩形の校舎は建物が占有する地面が小さい。内部の移動距離が短く、外壁面積が小さいなどの利点が生まれる。反面、南面しない教室が生まれ、自然採光や通風の確保に工夫も必要となる。教室の南面性による夏季の熱負荷の増大や冬季の直射日光など欠点も解決し、二つの中庭によって採光通風を確保し、矩形の校舎を実現した。

構造は原則、壁体と床版で構成される。壁は扁平な柱を含む耐震壁、床版は扁平な梁を含むヴォイドスラブである。外周面と直行する壁は一枚の壁体として自立し、中庭まで視線を透過する。作意の表出を最小限に留め、構造体が建築の骨格を形づくっている。





## 土木部長賞[優秀賞] 日立オリジンパーク

●株式会社 日立建設設計 住所／東京都千代田区内神田3-11-7 電話／03-6757-7100  
 ●協力事務所 展示／株式会社 乃村工藝社 照明コンサルタント／有限会社 サワダライティングデザイン&アナリシス  
 ●建物所在地／茨城県日立市大みか町6丁目19番22号 ●建物用途／博物館 ●構造／小平記念館:RC造一部木造、創業小屋:木造、大みかクラブ:RC造・木造  
 ●建築面積／小平記念館3,151.68m<sup>2</sup>、創業小屋130.00m<sup>2</sup>、大みかクラブ1,451.55m<sup>2</sup> 合計4,733.23m<sup>2</sup>  
 ●延床面積／小平記念館2,948.42m<sup>2</sup>、創業小屋130.00m<sup>2</sup>、大みかクラブ1,620.87m<sup>2</sup> 合計4,699.29m<sup>2</sup>



### 内装改修・耐震補強により往時の姿を再現した企業ミュージアム

小平記念館(新築)を中心に、創業小屋(最初の製品が誕生した工場を再復元)・1936年開業の大みかクラブ(改修)と一体的に再構築し、日立製作所の歴史などを広く一般に公開する企業ミュージアムである。

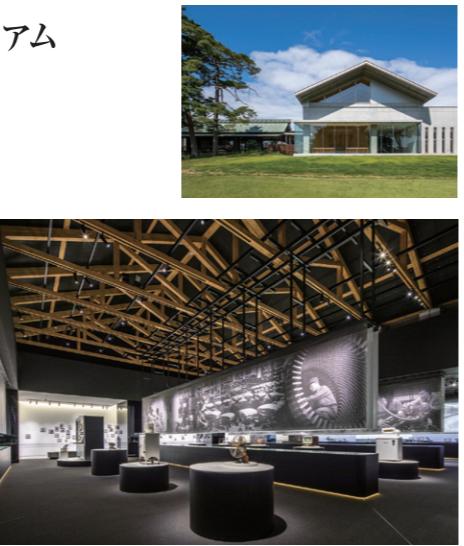
小平記念館の大断面集成材による連続する切妻屋根は、起源(オリジン)である創業小屋の屋根構造をモチーフとし、印象的な外観としつつ歴史ある大みかクラブと調和する計画とした。

エントランスからは創業小屋をガラス越しに印象的に見せる演出で来館者

を迎え、大空間の展示ホールではリアルとデジタルが連携した新しい展示体験価値を提供する。

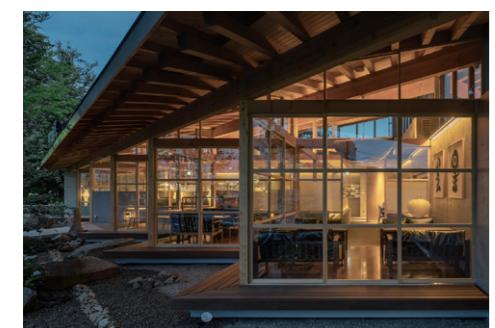
大開口を設けた開放的な多目的ホールでは、校外活動やセミナー等に利用可能で地域交流の場としても活用される。

また、開業当時の面影を残す大みかクラブ木造部は岸田日出刀、RC造の旧玄関部分(1974)は岡田新一の設計によるもので、今回実施した内装改修・耐震補強により、往時の姿を再現している。



## 茨城新聞社賞[優秀賞] 星乃珈琲店 守谷店

●ボンドアーキテクツ 住所／愛知県名古屋市南区笠寺町姥子山6-1 電話／052-602-6891  
 ●協力事務所 構造／藤尾篤構造設計事務所 その他／ビーエックス  
 ●建物所在地／茨城県守谷市百合ヶ丘2丁目279 ●建物用途／飲食店  
 ●構造／混構造(RC+S+W) ●建築面積／235.60m<sup>2</sup> ●延床面積／183.75m<sup>2</sup>



### 郊外環境と共生する持続的な店舗

一般に郊外店舗は周辺環境と無関係な計画となることも多く、当該チェーンもその傾向は顕著であった。本計画は「環境とのつながり方」からロードサイド建築を再考したものである。

計画敷地は幹線道路に対して奥に深く、周囲には雑木林が広がっていた。このような特徴は他のロードサイドにおいても散見される。そこで残存する自然と接続するように、三角形状のボリュームを敷地奥に寄せ、幹線から引きをとる配置する計画とした。そして雁行型平面により環境との接

点を最大化し、立体的なファサードや、外部と多様につながる客席、庭園のようなエントランスを計画した。このような空間に対し、おおらかな片流れ屋根を掛け断面的に大きな気積を持つ構成することで、客席など下部空間の更新を許容する柔軟性を有しつつ、上部空間において扇垂木による架構自体が意匠の一部として空間を彩ることで、将来的に内装が更新されても維持される強度と持続性を持った空間を目指した。



## [県建築士事務所協会長賞]

### 花やさと山サークルロッジ(石岡市ふれあいの森 宿泊棟)

●若柳・大山設計共同企業体 住所／つくば市台町1丁目8-1、筑西市新治1996-56 電話／029-886-8034, 0296-21-7005  
 ●協力事務所 構造／秋桜構造計画 電気／株式会社 若柳建築事務所 機械／伊藤設備設計室 ●建物所在地／茨城県石岡市下青柳字龍頭194番の一部  
 ●建物用途／宿泊施設(簡易宿所) ●構造／木造 ●建築面積／987.77m<sup>2</sup> ●延床面積／680.67m<sup>2</sup>

### 里山を再発見・再発信することのできる観光拠点

茨城県フラワーパークに隣接する石岡市ふれあいの森。フラワーパークのリニューアルに合わせ、『やさとの森に暮らす～人生を変える里山の体験～』のコンセプトを具体化し、ふれあいの森を里山の魅力を再発見・再発信することのできる観光拠点に一新することを目的に、園内の総合デザイン(プランディング)、空間デザイン及び改修や新設する施設の基本設計、実施計画を行った。サークルロッジは保安林に囲まれた丘陵地の最頂部に位置し、建物本体を含めグランピング・ウッドデッキの配置計画

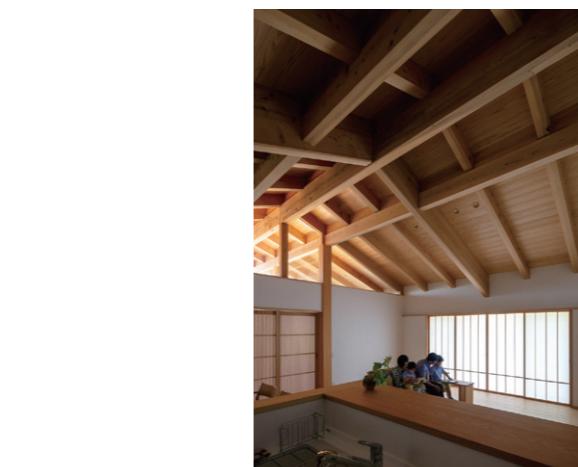


にあたっては環境の変化や樹木の伐採が最小限となるよう配慮した。現在、広場に残した桜の木もサークルロッジのシンボルとなっている。建物本体は宿泊棟、トイレ・シャワー棟、管理棟の3棟で構成し、地上部では外廊下、屋上は筑波

山ややさとの風景、星空を眺めるサークルデッキでひとつながりになっている。また、茨城県産材の利用や工期短縮を含めた環境負荷の軽減、木の風合いを最大限に活かすためパネルログ(角材を束ねた面材)を採用した。

## 【住宅部門最優秀賞】 ひたちなかの平屋

●岩瀬卓也建築設計事務所  
 住所／常陸太田市稻木町866番地 電話／0294-72-6121  
 ●建物用途／住宅 ●構造／木造 ●建築面積／138.90m<sup>2</sup> ●延床面積／119.24m<sup>2</sup>



### 性能と性質の両立と

### 次世代へと繋いでいくべき文化としての住まい

ひたちなかの平屋は、深い軒の出と南北に下る勾配屋根を持った四人家族の住まい。一体化した屋根と天井には重力に対しての潔さを込め、道路に面した矢切り部分にその構造を表した。屋内の梁上三角壁もガラスとしLDKと各室をシームレスに繋ぎつつ、引込み玄関戸によって、アプローチの雑木や道路向かいの畑の縁などの屋外環境への接続を示唆している。

身体に触れる床は40mmの厚板で仕上げた。この厚板を始め剛胆な垂木や登り梁は、原木の丸太から製材し天

性能面においても設計当時の最高等級相当(構造／断熱)の数値を実現している。これからも機能と風土を相克させ、性能と性質の両立と次世代へと繋いでいくべき文化としての住まいの在り方を考えていきたい。



## [住宅部門優秀賞] 囲み庭のある家

●株式会社 カナザワ建築設計事務所 住所／水戸市吉沢町268-3 電話／029-246-6812  
●建物用途／専用住宅 ●構造／木造 ●建築面積／139.91m<sup>2</sup> ●延床面積／121.52m<sup>2</sup>

### 多くの部屋から自然を感じつつ暮らせる空間

まちの中の住宅地にある敷地は南側に2階建てアパート、西側にも迫ってきている。また、道路のある東側には公園があるが逆に公園からの視線、音を遮断し更にガレージを2台分確保することが大切なご要望としてあった。その様なきびしい条件をクリアしつつ光を取り入れ、プライバシーを確保することがこの住まいの快適性を大きく左右するポイントと思われた。

ご提案として敷地内に中庭を設け、その空間を囲むように各室を配置することで多くの部屋から自然を感じつつ暮らせる部屋とした。

また、南側アパート2階廊下からの視



## [入選] 就労支援事業所 わーくるほーぶ

●株式会社 scale一級建築士事務所 住所／水戸市見川2-87-2 電話／029-246-6381  
●協力事務所 構造／株式会社 オセヤ一級建築士事務所  
電気／あおいいく建築設計株式会社 機械／株式会社 池田設備設計事務所  
●建物所在地／茨城県那珂郡東海村須和間字いが田1302-10 ●建物用途／就労支援事業所+レストラン  
●構造／S造 ●建築面積／792.58m<sup>2</sup> ●延床面積／666.09m<sup>2</sup>

### 地域との調和を大切にしたシンボリックな建築

法人設立当初から夢である施設建築の設計の依頼を頂いた。土地探しよりお手伝いさせていただきながら、多くの時間を共有し建築に対する考え方や施設の運営方法などを伺った。設計は調和を大切にしつつも地域のシンボリックな建築を目指した。

1期工事の就労支援事業所とレストランは法人名である「まつぼっくり」の松かさを連想する大小3つの屋根をかけ個の集合体を表現した。レストラン内部は松かさの傘に守られたような空間とし、利用者が傘に守られながらレストラ



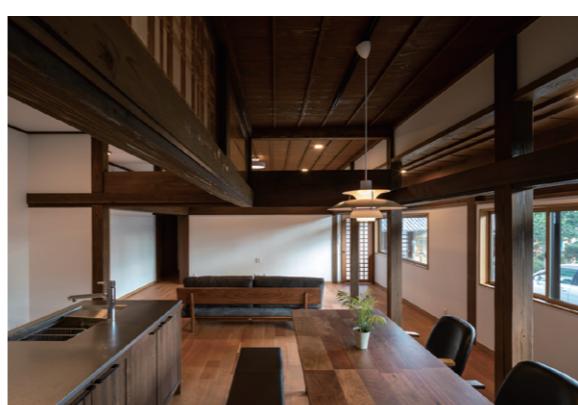
## [入選] 牛久市立ひたち野うしく中学校

●協力事務所 構造／細川慎也、伊藤 央、熊王 皓一 電気／中谷 光宏、貞永 信明、高橋 雄哉 機械／吹屋 享、西谷 幸二、岡本 直樹  
●建物所在地／茨城県牛久市東鷺穴町1341番1 ●建物用途／中学校 ●構造／木造(一部RC造・S造) ●建築面積／10,475.34m<sup>2</sup> ●延床面積／10,018.95m<sup>2</sup>

### 「懐かしくも新しい」印象の木造校舎

計画地はのびやかな田園風景に新興住宅が広がっている。生徒の増加が見込まれるこの地区で、「人と人とをつなぐ地域活動の拠点」として構想された。設計では、健康的で親しみを感じる学習環境の創設を前提として、県産材による純粋な木造にこだわった。茨城県の良質な八溝杉を用いることで、地域経済を活性化し、森林を保護するとともに、地域に対する生徒や市民の理解と誇りが醸成されることを目指した。大規模木材は一般に高コストのイメージであるが、流通木材や一般的な住宅に用いる従来技術を駆使し、特定の木造メー

ターに依存しない工法とした、また、メンブレン型耐火木造を用い純木造することでRC造の公立中学校の平均単価と比較して1割程度抑えることができ、他の地域においても実現性の高い大規模木造のロールモデルを示すことができた。ぬくもりある無垢の木材が子どもたちを優しく包み込む、「懐かしくも新しい」印象の木造校舎が出来上がった。



**動機：**笠間市箱田は、笠間焼発祥の地で知られ歴史と自然豊かな場所。一方で過疎化が進む状況の中、施主の「実家を再生し、地域が魅力ある場所として見直されるようなライフスタイルを実現したい」との思いから始まりました。

**工夫点：**土間・床の間・大黒柱など家族の歴史を大切に残しながら、親世帯、

ンの運営を行えるように配慮した。就労支援事業所は様々な依頼に対応できる広い作業スペースの配置と複数の入出荷動線を確保し、複数の依頼を同時に進行で行う法人の要望に応える設計とした。

配置は施設利用者やレストラン客、搬出入における動線や、車両の動線を明確にするために回遊できる計画とし、2期工事のグループホームや屋外作業場(畑)、スポーツ訓練場(3期工事予定地)などを配置した。

## [リフォーム賞] 箱田の家 古民家再生工事

●有限会社 吉田建築計画事務所 住所／石岡市石岡1-1-8 電話／0299-56-3246  
●建物用途／専用住宅 ●構造／木造  
●建築面積／218.26m<sup>2</sup> ●延床面積／198.20m<sup>2</sup>

### 集落の原風景を残しつつ、次世代へと継承できる建築

子世帯、共用部分と3つのゾーンに分け、二世帯住宅としての快適な暮らしの実現を目指しました。

子世帯はかつての客間空間をLDKとし、アイランドキッチン・北欧製の照明器具・最新の水廻り等、機能性とデザイン性を重視しました。親世帯は農業を営むご両親が気兼ねなく使える土間空間、90歳代の祖母に配慮

した水廻り、バリアフリー化等を組み入れました。

**住宅の価値向上：**内外共に伝統的な意匠・構造を継承し、集落の原風景を残しつつ、歴史ある建築物に、快適性、耐震性、温熱環境などの性能を向上させ、次世代へと継承できる建築として価値を向上させました。

審査委員 ※敬称略・順不同・役職は令和5年3月現在

熊澤貴之氏(国立大学法人茨城大学工学部都市システム工学科教授)

加藤研氏(国立大学法人筑波大学芸術系助教)／梅本舞子氏(国立大学法人筑波技術大学産業技術学部産業情報学科准教授)

山田陽一氏(茨城県土木部都市局建築指導課長)／小沼紀男氏((一財)茨城県建築センター理事長)

柴和伸氏((一社)茨城県建築士会会長)

## 茨城建築文化賞の講評

茨城大学 教授 熊澤 貴之

### 【第一次審査の経緯】

第36回の令和4年度は2023年3月20日に審査委員6名が出席して第一次審査を実施した。今年の応募作品数は24点(内訳:大規模建築9点)、小規模建築(9点)、住宅(5件)、リフォーム(1点))であり、小規模建築から大規模建築まで幅広い応募があった。例年より応募総数は少なめではあったが、質が高い作品が多く見られ、審査会では深い議論が繰り広げられた。

まず、審査委員が第一次審査会場に展示された全作品を審査した後、一人8票の持ち点で住宅、リフォーム、建築の大小、種別を問わずに投票した(第一回投票)。その結果、2票以上を獲得した作品(11作品)を講評し、さらに選別するために一人5票の持ち点で種別を問わず投票した(第二回投票)。その結果、1票以上獲得した作品(10作品)を選定し、3票以上獲得した作品(5作品)を第二次審査(現地審査)の対象とした。第二次審査をする5作品には住宅作品が含まれていなかったため、2票を獲得した住宅作品を住宅部門の最優秀賞に選定し、次いで得票数が多かった住宅作品を住宅部門の優秀賞とした。尚、第二次審査の対象である5作品にはリフォーム作品は含まれていなかった。よってリフォーム賞においては、入選以上に選定された1作品とした。

### 【第二次審査の経緯】

4月15日に審査委員6名が5作品を現地で審査した後、第二次審査会場に移動した。まず審査員全員が、周辺環境条件との調和、現代的課題への提案、まちづくりへの貢献、構法・機能的な解決策、建築文化としての伝承と発信、美しいデザイン性等を主な評価軸として、5作品を講評した。その後、個々の賞に対して一人1票の持ち点で投票した。

その結果、「たかはぎ認定こども園」が最高得票数を集め知事賞に決まった。順次審査対象作品に対する投票を行い、「日立市立日高小学校」が議会議長賞に、「日立オリジンパーク」が土木部長賞に、「星乃珈琲店守谷店」が茨城新聞社賞に、「花やまと山サークルロッジ」が茨城県建築士事務所協会長賞に決まった。

### 【現地審査に基づく入賞作品についての講評】

#### ■知事賞／たかはぎ認定こども園

##### 梓設計

前面の通りから見ると、曲面で構成された大屋根が視界に入り、まちのランドマークであることを認識する。建物の入口は正面の中央に位置し、ここから全ての保育室と保育室前の深い軒下空間を眺めることができる。この軒下空間では900mm間隔で木の登り梁が園児を包み込むように低めに設置され、登園時や降園時には園児と保護者、保育教諭が交流する。4m程迫り出した軒下空間では、どのような天候の時でも居心地よくコミュニケーションことができ、園庭を取り囲むように配置されているため、園庭と保育室の往来時にも大いに活躍する。内部空間では棟木の代わりに薄い鋼材が使用されており、すっきりとおさめられているなど、構造と空間のマッチングに優れ、木のぬくもりのある落ち着いた空間が広がっている。この作品はこども園において軒下空間を最大限に活用して「縁側」の可能性を大きく広げていることから、審査員の高い評価を獲得した。

#### ■議会議長賞／日立市立日高小学校

##### 三上建築事務所

「扁平な柱を包含する耐震壁」と「扁平な梁を包含するヴォイドスラブ」の骨格が吹き抜けとともに空間に挿入されることで、広々とした内部空間を創り出している。またこの骨格は立面や断面に効果的に表出しており、小学校建築において新しいファサードを生み出している。南北に長い矩形の校舎において、この骨格と二つの中庭が採光と通風に大きく寄与しており、校舎内を見通すことができる透明感の高い開放的な建築が実現されている。

#### ■土木部長賞／日立オリジンパーク

##### 日立建設設計

新築の連続する切妻屋根が既存建築の切妻屋根に寄り添うように構成されており、新旧の建築が一体感を持つように配置されている。エントランスホールに足を踏み入れると、ガラス越しに復元された創業小屋がシンボリックな存在として視界に飛び込む。創業小屋を眺めながら、左に進むと展示ホール、右に進むと多目的ホールが現れ、エントランスホールが異なる時空間をつなぐ中間領域となりながら、次に展開する空間の期待感を醸成している。

#### ■茨城新聞社賞／星乃珈琲店守谷店

##### ボンドアーキテクツ

周囲の雑木林との近接を意識した明るく開放感のある木造の構造が特徴的な作品である。上部空間の扇垂木と屋根面を支える柱は木造の架構の美しさを生み出している。雁行型平面によって多様な座席が設定されているとともに、将来的に内装の更新を行いやすいように空調や照明といった設備が建築に挿入されているなど、随所に丁寧な工夫が見られることが審査員より評価された。

#### ■茨城県建築士事務所協会長賞／

##### 花やまと山サークルロッジ(石岡市ふれあいの森宿泊棟)

##### 若柳建築事務所・大山都市建築設計JV

丘陵地の最頂上部において外側にバルコニーを設けた客室を円形に配置するとともに、内側の円形の広場には桜の木を残すなど、ロケーションを最大限に生かし切った作品になっている。角材を束ねた面材を活用して、茨城県産材の利用や環境負荷の軽減、木の風合いを最大に生かす視点など、木造建築の可能性に寄与していることが評価された。

以上、本年度に選考された上記の5作品は技術的な工夫を成し遂げた上、それぞれに個性を持った新しい空間が導かれ、意匠、構造、設備が統合した新しい建築の姿を生み出している。今後も本賞の趣旨に謳われた目的に叶う「一つの建築として完成度の高い作品」を見出すべく審査に臨む思いでいる。時代の求める課題に応え、チャレンジングな提案性ある新たな作品を次年度も期待したい。

※建築文化賞の表記は、申し込み時点のものとなります。

### 第36回建築文化賞 一次審査を取材して (報告 広報委員会／山田)

毎回、建築文化賞の審査がどのように行われているのか気になっており、その様子を取材してきました。第36回の令和4年度は、2023年3月20日に審査員6名が出席して第一次審査が実施された。会場は、ホテルテラスザガーデン4階の「ラウンジ」という名前の一室。

今年の応募作品は、24点(内訳:大規模建築9点、小規模建築9点、住宅5点、リフォーム1点)であり、例年に比べ全体



の応募数は減少傾向にはあるが、幅広い種別の応募があった。審査方法は、一次審査に出席する前に事務局が作成した厚みのあるA3サイズの冊子(コンセプト・図面・写真)が応募数分、各審査員の元へ郵送されており、ある程度気になる作品を頭の片隅に入れてから一次審査に望むようになっていることを初めて知った。

その事前の準備審査を経て、会場では総務委員会が進行役を務め審査が行われる。一次審査では会場に展示された写真パネル全作品をそれぞれ改めて審査して回る。途中、審査委員長の熊澤先生から他の審査員への問い合わせと、意見交換をしながら審査は進んでいく。

作品パネルに識別上番号が与えられているが、だれの作品かは基本的にはわからないようになっている。(どこかで既に目にしている場合を除き)

そして、一人8票の持ち点で住宅、リフォーム、建築の大小、種別を問わずに投票する(第一回投票)。その結果、2票以上を獲得した作品(11作品)を評価し、さらに選別するために一人5票の持ち点で種別を問わず投票した。(第二回投票)その結果により、作品を選定し、獲得数の多かった5作品を第二次審査(現地調査)の対象とした。入賞した10作品には住宅作品も1点含まれており、そこでより多くの票が入った作品を住宅部門の最優秀作品に選定した。また、次に得票数の多いもう一つの住宅作品を優秀賞とした。リフォーム賞は、一点が選ばれた。そして、最後に次の第二次審査(現地調査)のスケジュール候補を総務委員会飯島委員長が挙げ、審査員と他スタッフに周知確認をして一次審査は無事終了した。